

重点目標達成のための行動目標（アクションプラン）

（R8年度）

<本年度の重点目標> 自らの学びをつくり上げる子供の育成

前年度の課題	- 一人一人の自主学習の内容が充実するように、個に応じたアドバイスや、回覧型ノートの活用等、学年に応じて取組方を工夫する必要がある。 - 学期に1回程度、家庭での読書週間を設け、家族で取り組むことができるビンゴ（読み聞かせ、おすすめの本の紹介等）や読書貯金等に取り組んでいく。 - 子供は、思いやりのある言動をとることへの意識を高めることができた。今後は、学校や家庭で、子供を認めていく場をさらに設定していくことで、子供が、思いやりのある言動をとることのよさをさらに実感できるようにしていく必要がある。 - 養護教諭による染め出し等の指導を継続するとともに、給食後の歯みがき時間を利用して正しい歯みがきを呼びかけるなど、保健・環境委員会で取り組む。 - メディアの利用についての課題も保護者の声から上がっており、重点目標として取り上げることも検討する。		
具体的な達成目標 (数値目標)	- 国語会、算数会で80点以上とする児童の割合を90%以上とする。（国語会・算数会） - 進んで読書をする児童の割合を75%以上とする。（学校評価アンケート、目標貸出冊数、読書貯金等）	学校と家庭で進んで思いやりのある言動をとったり、挨拶したりすることができる児童の割合を90%以上とする。（海峰ほかほか・挨拶カード、学校評価アンケート）	海峰小学校のメディアルールを守ることができる児童の割合を80%以上とする。（学校評価アンケート）
行動Ⅰ (方策)	- 基礎的、基本的な学力向上のために、朝活動に国語や算数等の学習や集中力を高める認知トレーニングを行う。 - 読書への意欲を高めるために目標貸出冊数を設定したり、家庭での読書の習慣付けをするために長期休業期間中にファミリー読書を行ったりする。	生活委員会が中心となり、思いやりのある言動をとったり、自分から進んで挨拶したりすることができた児童を紹介する。「海峰ほかほか・挨拶週間」を各学期に設け、学校や家庭で思いやりのある言動のよさを実感できるようにする。	保健・環境委員会と体育・栽培委員会が連携して体を動かす遊びの楽しさを広めるとともに、児童がメディア以外の遊びを考えて提案できるようにする。また、メディア利用を減らすことで、体にも心にもよい影響があることを伝え、自分でコントロールする力を育む。
中間評価	<方策1>	<方策1>	<方策1>
運営協議会での意見	第2回学校運営協議会（アクションプランの取組状況、中間評価報告）		
行動Ⅱ (方策と取組状況)			
運営協議会での意見	第3回学校運営協議会（年度末評価報告）		
年度末評価 (学校関係者評価を含む)	<方策1> 総合	<方策1> 総合	<方策1> 総合
次年度への課題			